



おおむた自慢



長い歴史と伝統の技に培われてきた、大牟田市を代表するまつり「大蛇山」。今年も大蛇山が勇壮な姿で練り歩き、来場者に興奮と感動を与えましたが、その製作過程はあまり知られていません。匠の技と伝統を守る祇園六山の男衆に話を聞きました。

大蛇山を形取っている主な材料は竹、ワラ、紙の三つだけです。孟宗竹と真竹、それぞれの特徴を活かし骨組みを作り上げ、わらと紙で形を整えます。作業行程はほぼ同じですが、それぞれの山のこだわりと光る伝統の技を紹介します。

三池祇園宮
先代の作り手から現在の四十四代を中心とした作り手に代わり数年余り、後頭部と頭、眉間に緑の三色に限った色使いという二つの伝統だけは頑丈に守りつつ、若い感覚で雄山らしい、にらみを利かせた表情づくりに取り組んでいる。
〔地図A〕



三池藩大蛇山三池新町彌劍神社
雌山らしくあえて鮮やかな緑色を強調している。よく見ると歯の形も前歯は弓歯だがほのかの歯は三角歯というのも雌山の特徴。細長い女性らしい輪郭ながらも大蛇山の勇壮さは損なわれていないところに匠の技が光る。
〔地図B〕



まつり終了後はどの山でも山崩しが行われます。大蛇(龍)は天子に昇つてしまふので、准地に留まつてもらえるようその日のうちに崩す習わしというところや、「語り手が山崩しの気準備中、子供たちに大蛇山の歴史や伝統を守ることの大切さを伝える山」若い衆で感謝の気持ちを込めながら解体するところや、子供たちだけで山崩しを行い、それぞれ手にした方が思ひと感謝の心はどの山にも共通してあり、大蛇山を通じて、大牟田市の将来を担う子供たちに伝えられています。各山で継承されている「思ひ」と「匠の技」は、また来年の夏も魅了してくれるでしょう。

伝統の技が光る大蛇山の製作現場

匠の技

連載
おおむた自慢

本宮彌劍神社
祇園の伝統をしっかりと受け継ぐことにより、自信と誇りをもつて製作に当たるよう、若い世代の作り手を厳しく指導。色合いは緑に黒を混ぜた重みのある昔ながらの手法で、雌山らしくやさしさの中にも勇ましさを出す工夫も怠らない。



大牟田神社第一区祇園
唯一、大蛇山の口に「宝珠」を持つ。上あごと下あごの激しい動きが見所のひとつでもあるが、これを支えるのは長年培われた技術。深い緑色で雄々しい顔つきと動きが激しさは雄山ならではの見所である。
〔地図D〕



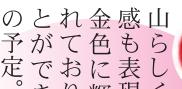
諏訪神社
男大蛇と呼ばれているこの山は製作を非公開としており、まつり本番の日までその姿を見るとはできない。大きさは六山の中でも随一で左右に揺れるその姿はダイナミック。色合いは深緑をベースとしているが、十年に一度は白大蛇となる。次回は四年後(平成二十九年)に製作される。
〔地図E〕



三区八剣神社
深い緑色が基調だがブルー色鮮やかさが目を引く。首らあごのラインの美しさは山らしく、沼から出てきたばかりの臨場感も表現。また節目の年などは特別に黄金色に輝く金大蛇となることでも知られており、現在のところその姿を見ることができるのは三年後(平成二十八年)の予定。
〔地図E〕



本宮彌劍神社
祇園の伝統をしっかりと受け継ぐことにより、自信と誇りをもつて製作に当たるよう、若い世代の作り手を厳しく指導。色合いは緑に黒を混ぜた重みのある昔ながらの手法で、雌山らしくやさしさの中にも勇ましさを出す工夫も怠らない。



大牟田神社第一区祇園
唯一、大蛇山の口に「宝珠」を持つ。上あごと下あごの激しい動きが見所のひとつでもあるが、これを支えるのは長年培われた技術。深い緑色で雄々しい顔つきと動きが激しさは雄山ならではの見所である。
〔地図D〕

